

九州大学法学部ニュース：第22号

<https://hdl.handle.net/2324/1805811>

出版情報：法学部ニュース. 22, pp.1-, 2017-03-31. 九州大学法学部広報委員会
バージョン：
権利関係：



2016年度 学位記授与式(卒業式)

2017年3月24日に
2016年度九州大学
学位記授与式(卒業式)が
執り行われました。
卒業者は法学部189名、
修了者は法学府15名です。



学部卒業式



学部卒業式



学部卒業式



学部卒業式



学部卒業式



卒業祝賀会



卒業祝賀会



卒業祝賀会



卒業祝賀会

卒業にあたって

立野 里佳

(法学部総代・京都大学法科大学院進学)



九州大学法学部に入学して早四年が経ち、私たちも旅立ちの日を迎えることになりました。大学生活を振り返り、卒業にあたっての所感を述べさせていただきます。

この四年間で得たものは何か、と問われるならば私はやはり、論理的思考力だとこたえるでしょう。それは四年間を通して培った知識とその利用方法によって支えられるものです。

とりわけゼミでは、多くの本と人に出会い、議論を通して、法学とは単なる知識の積み重ねではなく、体系的な学問であることに気付かされ、そのうえで論理的矛盾を発見することを学びました。議論はもちろん遊びも全力で取り組むゼミの同期、後輩たち、先輩方のおかげで、息抜きをしながら四年間、難しい課題にも楽しんで取り組むことができたように思います。

社会に出れば不合理に溢れていて、このような論理的思考力は余計なものになるかもしれません。しかし、不合理だと考えられる人がいなくなれば社会は悪くなる一方だと思っています。私たちは九州大学法学部の卒業生として不合理なことは不合理だと認識し、考えることをやめない人であるべきだと思います。

私たちは大学生生活の殆どを、日々取壊し工事が進む箱崎キャンパスで過ごしました。やがて私たちが議論を交わした場所、講義室、図書館もまた、なくなってしまうことには、寂しさを感じざるを得ません。

それでも、目には見えない、ここで得たもの、能力は必ず糧になり、人生を支えてくれることでしょう。少し思い返してみても九州大学法学部で過ごした日々は私の人生の中で忘れることのできない一ページとなると疑いなくいえます。

最後になりましたが、このような日々を過ごさせてくださった、すべての関係者の皆様にお礼を申し上げます。とりわけゼミでご指導いただいた井上宜裕先生、遠藤歩先生、赤坂幸一先生、いつも応援してくれる両親には言い表せないほどの感謝を感じております。これからもよろしくお願いします。



遠藤ゼミ OB・OG会

法学府 学位記授与式



直江眞一教授最終講義

2017年1月27日、直江教授の最終講義が行われました。

直江教授は1993年のご着任から24年に渡り、法学研究院で教育・研究・学部運営にご尽力いただきました。
2006年4月から2009年3月までは、大学院法学研究院長・法学府長・法学部長を2期3年務められました。



題字は西村重雄名誉教授揮毫

直江先生のご退職に際して

准教授 遠藤 歩

この春、九州大学法学部を長年支えてこられた直江眞一先生が定年退職されました。1993年4月のご着任から数えると、実に24年間の長きにわたり、教育、研究、管理運営にご尽力いただいたことになります。その真摯な研究姿勢と優しいお人柄には、誰もが引き付けられました。先生のご経歴およびご業績は、「法政研究」第83巻3号に記載されていますので、ご参照願えれば幸いです。

2017年1月27日(金)には、文系講義棟202教室において最終講義が行われ、多数の在学生、OBOG、研究者や教職員が出席しました。

「Tempus fugit」-41年間の研究生生活をふりかえって」と題された講義では、前半において、東北大学時代から九州大学赴任後の教育研究生活につき、ユニークなエピソードをまじえつつ回想されました。イングランドにおけ

る在外研究のお話などは、その光景がありありと目の前に浮かんでくるようでした。また、後半では、先生の研究テーマの一つである写本研究につき、その実例をもとにお話いただきました。写本に加えられた修正の謎に迫り、それを少しずつ解き明かしてゆく様は、スリリングな推理小説のようでした。

最終講義終了後には、福岡リーセントホテルにおいてお祝いの会が開かれました。卒業生達が全国各地から駆けつけ、教職員とともに、先生の長年の労を労いました。卒業生からサプライズのプレゼントが飛び出すなど、終始和やかな雰囲気で行われました。

ご退職後も九大法学部を見守ってくださいますようお願いいたしますとともに、先生のますますのご健勝とかかわらぬご活躍を祈念いたします。



韓国地方自治法学会とのシンポジウムを共催しました

平成28(2016)年12月2日・金曜日、国際シンポジウム「日韓(韓日)地方自治法制の主要課題と未来」を九州大学大学院法学研究院大会議室で開催しました。

このシンポジウムは、韓国の「地方自治法学会」と本研究院の田中孝男教授が代表の科学研究費補助事業との共催で行われたものです。当日、韓国からは、同学会名誉会長の洪井善先生をはじめとした著名な公法・行政法研究者が20人以上来学され、日本側も九州大学の教員のほか多くの大学の著名な憲法行政法・地方自治研究者が参加されました。シンポジウムでは、日韓の地方自治法制、国と自治体の関係、条例制定権、自己統制制度などについて、研究報告や討論が進められました。

韓国では、1995年にそれまで停止されていた地方議会が復活し、2015年にはそれから20年が経ちました。この間、同国は、民主化の進展とともに、地方自治制度の定着と発展が急速なものとなっています。本シンポジウムで示された韓国地方自治の最新の姿は、日本の法制研究にも示唆を与えるものとなっています。議論も白熱し、シンポジウムは、予定より1時間も超過し、午後7時半過ぎに終わりました。

その後も、日韓両国の方々は、場所を懇親会会場に変えて、引き続き活発な議論を重ねました。参加者にとって極めて有意義な時間となったことと思います。





着任挨拶

准教授

まる たに こう すけ
丸谷 浩介

長崎県大村市に生まれ、千葉大学、熊本大学大学院、九州大学大学院で学び、佐賀県の西九州大学、佐賀大学で合計18年半勤めました。このたび、母校に戻ってきて大変緊張しています。

私は社会保障法を勉強しています。社会保障制度の根幹部分は、最低限度の生活を守る生活保護制度です。日本の社会保障制度は先進国の制度を範としてきましたが、そのなかでもイギリスの法制度を参照することが多かったようです。イギリスの法制度は、働くことと最低限度の生活を保障することとの間で様々な施策を講じ、年金や医療、税制といった役割分担

の中で発展してきました。その中でもイギリスの求職者にどのような権利保障がなされているかを中心に研究し、それを日本と比較することが私の研究テーマの中心です。

社会保障法学は、イギリスはもとより日本の法学部においてそれほどメジャーな学問ではないかもしれませんが、それでも、この数年で法律学と裁判実務、政策策定過程における社会保障法学の重要性が増しているように思います。実は社会保障法学の礎を築いたのは九州大学の社会法講座でした。浅学な私がこのような伝統を引き継ぐことに大変戸惑っています。余り気負わずに勉強していこうと考えています。

着任して驚いたのは、学生さんの能力の高さです（例外もあるようですが）。教師としては、いかにしてその能力を高めていくかが課題なのでしょう。学生と共に私も向上していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

2016年度秋季学位記授与式スナップ



学部学位記
授与式

(2016年9月26日)



学府国際コース
修了式

(2016年9月9日)



「NHKキャリア仕事研究セミナー ～大越健介記者による講演～」を開催しました

法学部は、報道関係や記者職に就職する学生を例年輩出しています。2016年度にも法学部からNHKへの内定者が出ており、報道業界の業界研究やNHKにおける仕事研究について学生に周知するため、「NHKキャリア仕事研究セミナー」を開催しました。(2016年11月16日)

当日は、NHK報道局の大越健介記者主幹が講師としてご登壇してくださいました。

大越記者は、岡山局、政治部、ワシントン支局を経て、2015年の3月まで「ニュースウオッチ9」のキャスターを務められました。その後は、テロが起きたフランスやオリンピックに沸くりオなど世界各地を取材され、現在は「NHKスペシャル」のキャスターなどを務められています。大越氏は、NHKで働くということ、様々な人を取材して感じたこと、宮崎駿氏の取材の様子などをお話しされました。学生からも積極的な質問がでて、盛況のうちに実施することが出来ました。大越記者からも「いい学生さんが沢山いて嬉しかった、皆熱かった」との感想を述べてくださいました。

法学部の学生は、社会や政治、国際情勢に対する問題意識も高く、新聞社やテレビ局などの報道業界や記者、ジャーナリストへの内定も多く出ています。今後法学部としても、多様な業界説明会を開催していく予定です。



大越健介記者(NHK報道局)





法学部同窓会が開催されました



第42回九州大学法学部同窓会が
2016年10月21日(金)に、西鉄グ
ランドホテルにて開催されました。

当日は、総会、懇親会が行われ、
200名を超える卒業生・在校生・教
職員が参加しました。

法学部同窓会は、毎年10月の第三
金曜日に行われます。同窓会の皆様、
是非ご参加ください。



司会を務めた法学部3年生の岩佐裕太さんと北風晴香さん



法学部教員の近著 (判例解説を除く)

※法学部HPでも随時紹介しています。

川崎英明・三島聡・刈野貴生(編著)

『2016年改正 刑事訴訟法・通信傍受法 条文解析』(日本評論社)

高平助教、田淵教授、豊崎教授

2017年2月

黒沼悦郎・藤田友敬(編)

『企業法の進路/江頭憲治郎先生古稀記念』(有斐閣)

笠原准教授

2017年2月

2016年度 進路先一覧

(2017年3月31日現在)

卒業生 194名(内女子73名) 進学23(6) 企業81(29)

右欄は、女子で内数

※9月卒業者含む

公務員67(30) その他23(8)

企業

JFEエンジニアリング	1	
NTTドコモ	1	
アーバンリサーチ	1	
旭化成	1	
朝日生命	1	
麻生	2	1
伊藤忠エネクス	1	
伊藤忠商事	1	
宇部興産	1	1
英進館	1	
大分ガス	1	1
九州大学	2	1
九州旅客鉄道	1	
交通新聞社	1	
国際協力機構	1	1
個別教育舎	1	
秀英予備校	1	1
商工組合中央金庫	1	
新日鐵住金	2	
住友化学	1	
住友生命保険	1	1
総合メディカル	1	
損保ジャパン日本興亜	1	1
大和証券	2	1
中国新聞社	1	
帝人	1	1
東京海上日動火災保険	4	2
東芝テック	1	
東和フードサービス	1	1
トヨタ自動車	2	1
西日本鉄道	2	
西日本新聞社	1	
日鉄住金環境プラントソリューションズ	1	
ニトリ	1	1
日本政策投資銀行	1	
日本生命保険	3	1
日本放送協会	2	
野村総合研究所	1	1
博報堂	1	
パナソニック	1	1
日立システムズ	1	

日立製作所	1	1
福岡銀行	8	4
福岡地所	1	
福徳不動産	1	1
富士通マーケティング	1	1
三井住友銀行	2	
三井住友信託銀行	1	
三井不動産リアルティ九州	1	
三菱商事	1	
三菱東京UFJ銀行	1	
三菱日立パワーシステムズ	2	
宮崎銀行	1	
山口税務会計事務所	1	
山口フィナンシャルグループ	2	2
読売新聞西部本社	1	
ワークスアプリケーションズ	3	2
計	81	29

国家公務員

大分地方検察庁	1	1
環境省	1	
外務省	1	
鹿児島地方検察庁	1	1
九州運輸局	1	
九州厚生局	2	2
警察庁近畿管区警察局	1	
国税庁	1	1
国立国会図書館	1	1
東京高等裁判所	1	
熊本家庭裁判所	1	
熊本地方裁判所	1	1
佐賀地方・家庭裁判所	1	
財務省九州財務局	1	
総務省	1	
長崎地方裁判所	1	
広島法務局	1	
福岡高等裁判所	1	1
福岡財務支局	1	1
福岡地方検察庁	1	1
福岡入国管理局	1	1
福岡法務局	1	

福岡労働局	1	1
防衛省沖縄防衛局	1	
法務省	1	
法務省保護局九州地方更生保護委員会	1	1
労働基準監督署	2	1
その他	1	
計	30	14

地方公務員

愛媛県	1	
大分県	2	1
香川県	1	
加古川市	1	
北九州市	1	
霧島市	1	
熊本市	1	
久留米市	2	1
佐世保市	1	1
東京都	2	1
長崎県	1	1
長崎県警察	1	1
福岡県	7	2
福岡県警察	1	
福岡市	11	8
山口県	2	
高知県	1	
計	37	16

進学

九州大学法府	5	1
九州大学法科大学院	8	2
京都大学大学院法学研究科	1	
京都大学法科大学院	1	1
神戸大学法科大学院	4	1
一橋大学法科大学院	1	
大阪大学高等司法研究科	1	
東京大学公共政策大学院	1	
東京大学法科大学院	1	1
計	23	6

編集後記

今年も卒業生・修了生が新たな門出を迎えました。

法学部ニュースについてのご寄稿ご意見等がございましたらお知らせください。

炭崎 貴子(sumisaki@law.kyushu-u.ac.jp)